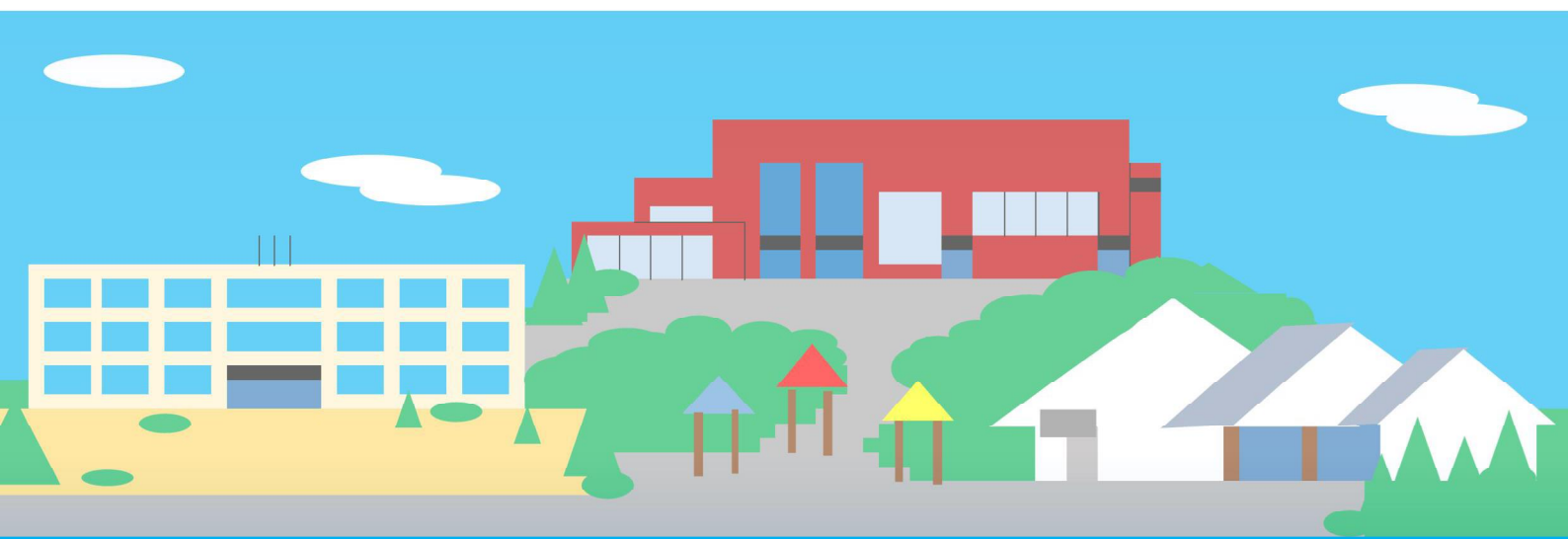


福生の**公共** **施設** **ハコ** **モノ** を考えよう

令和7年度 地域懇談会実施報告書



令和8年4月

福生市企画財政部公共施設マネジメント課

目次

1	事業の概要	1
2	1日目のワークショップ	1
3	1日目の作品	5
4	2日目のワークショップ	9
5	2日目の作品	12
6	参加者アンケート	16
7	資料（1日目 説明スライド）	20

1 事業の概要

福生市では公共施設を利用されている方をはじめ、広く市民の皆様と、今後の公共施設について意見交換をするため、令和元年度より地域懇談会を開催しています。

今年度は、令和4年度に行った「将来の暮らしと公共施設の接点」をブラッシュアップさせ、「ゲームを通して考えよう！公共施設のこれから」をテーマに2日間に分けて開催しました。

開催日時		場所	参加人数
1日目	令和8年2月28日（土） 午後2時から4時まで	もくせい会館3階 会議室	17名
2日目	令和8年3月7日（土） 午後2時から4時30分まで		18名

【ファシリテーター】

小澤 はる奈 氏

【経歴】NPO法人環境自治体会議環境政策研究所理事長・元福生市基本構想審議委員・
元福生市公民館運営審議会委員

※令和元年度から地域懇談会のファシリテーターを務めていただいています。

2 1日目のワークショップ

(1) 内容

冒頭、福生市から「公共施設の現状と課題」の説明を行いました。今回の地域懇談会では「必要なサービスは残しつつ、公共施設の総量抑制を行うこと」が公共施設を取り巻く課題解決の手法の一つと考え、学校を核に「複合施設の共同利用により地域コミュニティを構築すること」をポイントとしています。

ファシリテーターの小澤はる奈氏による進行により、学校と何をかけ合わせれば新たな地域コミュニティの拠点になるか、複数の機能が連携することによる利便性が向上するか等、班ごとに振り分けたペルソナ（架空の主人公）になりきって考えていただきました。

(2) ワークショップの様子

班ごとに振り分けられたペルソナのイメージ（図A）を確立した後、「一個人として」グループごとに施設リスト（図B・C）の中から、学校を核に複合化するのが望ましい機能（施設）を選びました。

図A：班ごとのペルソナ（架空の主人公）

班名	世代	年代	性別	職業等
1班	子ども・若者	10代	女性	高校生
2班	働き・子育て	40代	女性	専業主婦
3班	シニア	60代	男性	定年退職
4班	働き・子育て	30代	男性	会社員

福生市にある公共施設の機能、その他施設（図B・C）を中心として、カードにない機能は自由に書き足していきます。次に複合化によって「期待できること」「懸念点」を書き出しました。（図D）

図B：公共施設リスト

公共施設（緑色）
ホール、集会施設（市民会館）
集会所施設（公民館・地域会館）
展示施設（プチギャラリー）
市民活動支援（輝き市民サポートセンター）
地域活性化センター（もくせい会館）
茶室（福庵）
図書館機能（各図書館）
文化財関係施設（郷土資料室）
技場・テニスコート）
教育センター機能（子ども応援館）
児童福祉施設（児童館）
放課後の居場所機能（学童クラブ）
社会福祉施設（福祉センター）
障害者福祉施設
観光案内所（くるみるふっさ）
保健センター
子ども家庭センター
市役所
出張サービス機能

図C：その他施設リスト

その他施設（水色）	
小さな公園	移動式スーパー
大きい公園	運動場
芝生の広場	マルシェ
病院	農産物直売所
店舗	テレワークスペース
入浴施設	喫茶店
銀行（ATM）	コンビニエンスストア
郵便局	スポーツジム

図D：ワークシート1

相乗効果を生む施設

主人公	性別	年代	職業	結婚の有無	子どもの有無	両親の同居

学校を核に複合する施設・機能	期待できること	懸念点
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">緑色のカード (公共施設機能)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">水色のカード (その他施設機能)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">補足する場合 同じ色の付箋を使用</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 80%; margin: 0 auto;">白色のカード</div>	

令和7年度地域懇話会

図E：ワークシート2

地域コミュニティの創出

時刻	誰と	何をしているか
平日 午前	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60%; margin: 0 auto;">黄色のカード</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%; margin: 0 auto;">付箋</div>
午後	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60%; margin: 0 auto;">補足する場合 同じ色の付箋を使用</div>	
休日 午前		
午後		

令和7年度地域懇話会

ここから、「ペルソナになりきって」学校の複合施設があったら、どのように利用したいか、イメージを膨らませていきました。(図E・F)

図F:「誰と」リスト

誰と (黄色)	
お母さん	同級生同士
お父さん	職場の同僚
夫婦	一人
小学生	町内会の人たち
中学生	保護者の方々
高校生	知り合い同士
大学生	外国人
おじいちゃん	恋人
おばあちゃん	スポーツクラブの仲間たち
おじいちゃんとおばあちゃん	動画で興味を持ち福生に来た人々
お母さんと子ども	16号に遊びに来た人たち
お父さんと子ども	お店の人たち
近所の人たち	青梅線沿線の人々
近所の子どもたち	先生
家族	コーチ
サークル仲間	上司
仲の良い方々	

ここでは、ワークシート(図E)のタイトルでもある「地域コミュニティの創出」とあるとおり、学校+αの機能を「平日午前」「平日午後」「休日午前」「休日午後」の時間軸で考えてもらいました。

ワークシート完成後には、検討した「学校の複合施設」について、グループごとにポスターセッション形式で発表していただき、ペルソナごとに考えた複合施設の共有を行いました。最後にファシリテーターによる講評と併せて、次回ワークショップのつながりを説明していただきました。

発表の様子



● ファシリテーターから1日目の講評と2日目への視点

今回考えていただいた施設は、それぞれとても充実していて、こんな施設があれば、途絶えていた人とのつながりが復活したり、多世代での交流があったりと、素敵な未来が見えそうな気がします。

ただ、様々な制約もありますので、そんなに素晴らしい施設を市内に何箇所も造るわけにはいきません。

実際に施設を整備していこうと思うと、土地の制約、財源の問題、いろいろなことを考えて我慢して削らなければいけないこと、諦めなければいけないことが出てきます。それをどうやって考えたらいいのか。これらを次回ボードゲームを通して皆さんで考えていただきます。その時も主人公の立場に立って考えていただくので、本日、なりきっていただいた主人公を覚えていてください。

今日は、いろいろな施設の姿を考えていただいて、この施設があることでこういうことができるというイメージができました。一方、懸念点としては、セキュリティの問題、パンデミックの心配、そのあたりも考えながら施設計画を立てなければならないことが見えてきたのではないかと思います。

実際（施設を）建てるときにどんなことに気を付けなければならないかは、来週の課題になります。

